

日本聖公会

大阪教区教役者、並びに教区の皆様へ

新型コロナウイルス・COVID-19 感染防止対応について

2020年3月21日

日本聖公会大阪教区

主教 アンデレ 磯晴久

主の平和がありますように。

世界各地で新型コロナウイルス・COVID-19による感染症の拡大が続き、日本国内における感染のピーク時期もまだ見通せておりません。WHO(世界保健機関)はパンデミック(世界的な大流行)を宣言し、引き続き各国が感染拡大を抑え込むようにと要請を出しています。大阪教区ではこうした状況に鑑み、3月12日付けで、3月15日～31日までの大阪教区としての対応を送付致しました。そのことに対する、教役者をはじめ皆様のご理解と忍耐、お祈りに、心より感謝申し上げます。

私たちにとって、聖週からご復活日という一年でもっとも大切な日々に向かっていく時期に、主日礼拝・聖餐式を中止するというのはとても悲しいことです。皆様もこの痛みを感じながら、多くの人々が置かれている苦しい状況をも心に留めて、この時を過ごして下さっていることと存じます。私たちは、「わたしを呼ぶがよい。苦難の日、わたしはお前を救おう。」(詩編49:15)と呼び掛けてくださる神様に思いを向け、「わたしは激しく心動かされ、憐れみに胸を焼かれる」という神様の大きな愛を見つめ、この災禍の一日も早い終息のために、たゆまず、粘り強く祈って参りたいと思います。

さて、私たちは主イエスの教えに従い、「いのち」を大切に、特に、高齢者や健康に不安のある方々への影響が最小限度に留められ、教会活動が感染の原因を作ることがないように、同時に誰でもが感染しうるということを意識しつつ、配慮をもって歩んで参りました。

今私は、この惨禍の長期化への懸念と、これは今後も起こり得る災害の一つではないかと感じています。災害というと地震や台風を予測しますが、世界中で新型ウイルスによる危機的な災害が起こるということを体験しています。こうした中で、私たちにとって大切な「礼拝」「聖餐式」をどう守り、宣教・伝道活動を展開していくか真剣に考える岐路に立っていると、わたしは認識しています。私たちは新しい局面に入りつつあるのではないのでしょうか。

是非、教区で、教役者会で、教会で、話し合う機会を設けて頂きたいと願っています。

皆様の健康が守られますように。主の導きを祈りつつ。

+Andrew

<2020年4月1日以降の大阪教区の方針をお知らせします。>

- ① 教会での主日礼拝・聖餐式については、十分な感染防止策を取り、下記の点に留意した上で、落ち着いて再開に向け歩み出します。ただし、クラスター感染を起こさないための対策が、十分取れているかどうか冷静に判断し、再開してください。対策が十分取れない場合は、決して無理をしないでください。今しばらくは礼拝出席を自粛し、自宅での祈りを続ける選択も大切にしてください。
- ② 聖木曜日司祭按手の更新と聖油聖別の礼拝は行いますが、聖餐式は行いません。(11:00 主教座・川口基督教会) 誠に残念ですが、聖金曜日(受苦日)教区礼拝は中止とします。
- ③ どうしても開催する必要がある集会や会議についても再開に向け歩み出します。しかし、危機が去ったわけではありませんので、引き続き、規模の縮小、時間の短縮、席間距離の確保、聖歌斉唱の割愛などの対応を検討し、こまめな換気を行った上で、大人数が一か所に集まる状況をできるだけ短くするよう努めてください。復活日に沢山の方が集まることが予想される教会は、午前と午後など、礼拝を複数回行うなど、工夫をお願いします。
- ④ 聖餐式については、「ウェハースのみの一種陪餐」とします(主イエス・キリストの体と血、と司祭が言います)。また、「み言葉の礼拝」として、み言葉の sacrament を大切にしてください。聖餐式をする場合、司祭は素手でウェハースに触れる前に、指先のアルコール消毒を必ずしてください(クリーデンステーブルに消毒液を置いておくなど)。オルター奉仕者が聖餐の準備をする時も、手指の消毒に努めてください。
- ⑤ 引き続き、新型コロナウイルスの感染は収まってはいないので、自発的に礼拝出席を控えることも可能とします(細心の注意で感染防止に努めなければならぬ状況にある方々もおられるためです)。
- ⑥ 平和の挨拶での握手を控えることや、司式者の判断により聖歌を割愛することがあっても、隣人への配慮としてご了承ください。また、会衆はもちろん、司式者・信徒奉事者・サーバーが礼拝中にマスクを着用することをご了解ください。
- ⑦ 信徒・教役者にかかわらず、本人もしくは同居者に咳・微熱等、体調不良が認められる場合は、聖餐式・礼拝等に参加しないようにしてください。また、不特定多数の集まる場所に同席することに不安を感じる場合は、礼拝を欠席することをためらわず、自宅で祈りを献げてくださることも大切なことであると勧めください。
- ⑧ 聖餐式・礼拝後の食事・愛餐会などは、残念ですが引き続き中止してください。
- ⑨ 教役者が咳や発熱によって礼拝を司式できなくなった場合は、急ぎよ、信徒だけで「み言葉の礼拝」に切り替えることができます。その際、準備がなければ勧話等は割愛していただいて結構です。また、その対応も困難であれば、集まった者だけで、短く一緒に祈るひと時を持ち、気をつけて解散するようにしてください。

- ⑩ 葬儀・結婚式等は、十分な感染対策を講じた上で執り行ってください。
- ⑪ これらの対応は、それぞれの教会の状況によって幅が生じるでしょうが、何よりも、健康に不安のある方々への影響が最小限に留められ、教会活動が感染の原因を作ることにならないよう、教役者および信徒各位のご理解・ご協力をお願いするものです。
- ⑫ 教役者各位にお願いですが、引き続き信徒・求道者への牧会的配慮をよろしくお願いします。

この感染症によって命を落とされた方々、療養中の方、不便な生活を強いられている方々、治療・看護・防疫の対応に当たっている方々、とくにその対応に苦しんでいるヨーロッパ各国をはじめ世界中の人々が守られ、支えられるようお祈りいたします。

以上